

本資料及び資料に含まれる第三者著作物を再使用する場合、
利用者は、それぞれの著作権者より使用許諾を得なくてはなりません。

Homework 11

ことばを科学する：人間の再発見（主題別科目：思索と言語）

2013年度2学期

奥 聡

(A)

添付の文書、ピンカー『言語を生まだす本能 [上]』（日本放送出版協会）「III. 思考の言葉：pp.73-90」を読んで、テキストで述べられていることと異なるものを以下から2つ選びなさい。（指定の箇所だけを読めば解答できます）

- a. イヌイットの語彙に関する話が誇大になったのは、北極圏の人々に対する西洋人の偏見が大きな原因と考えられる
- b. サピアは、工業化されていない社会の人々も複雑な言語体系を持っていると主張した
- c. ロシュの実験によると、色の名前（言語）が色の認識（世界観）を左右するのではなく、色の認識が色の覚え方を左右する
- d. 「言語が違えば世界観も違う」というウォーフの説は、ブルームの研究により実証された*
- e. ウォーフの説に従うと、色を表す単語が5つしかない言語の話者は、その他の色を区別して認識することができない
- f. ウォーフはホピ語には『時』の概念がないと主張した
- g. サピアもウォーフも言語研究の専門家であった*
- h. レネバークとブラウンによると、ウォーフの説では「話し方」と「考え方」の関係は、循環論になっている

(B)

添付の文書、ピンカー『言語を生まだす本能 [上]』（日本放送出版協会）「V. 言葉、言葉、言葉」の中の「赤ん坊は、言葉以前にももの概念を持っている」pp.210-216を読んで、テキストで述べられていることと異なるものを以下から2つ選びなさい。

- a. 母語獲得中の子どもは新しく出会った単語の可能な意味をできるだけたくさん検討する
- b. 子どもは1歳前から、「物体」は急に現れたり消えたりしないということを知っている
- c. マークマンとハッチンソンの研究によると、2～3歳児は、「犬または骨」という概念が、1つの単語にはなりえないということを知っている
- d. 子どもは1つの単語が複数の意味を持つことはまれであるということを知っている
- e. すでに知っているものが別の単語で呼ばれるのを聞くと、子どもはそれが同義語であるとは解釈しない
- f. 赤ん坊はもの名前を覚えるより前に、もの概念を持っている

(C)

1. ピンカー『言語を生まだす本能 [上]』(日本放送出版協会 : pp.73-90)「III. 思考の言葉」を読んだ感想を自由に書きなさい。

2. ピンカー『言語を生まだす本能 [上]』(日本放送出版協会)「V. 言葉、言葉、言葉」の中の「赤ん坊は、言葉以前にももの概念を持っている」を読んだ感想を自由に書きなさい。